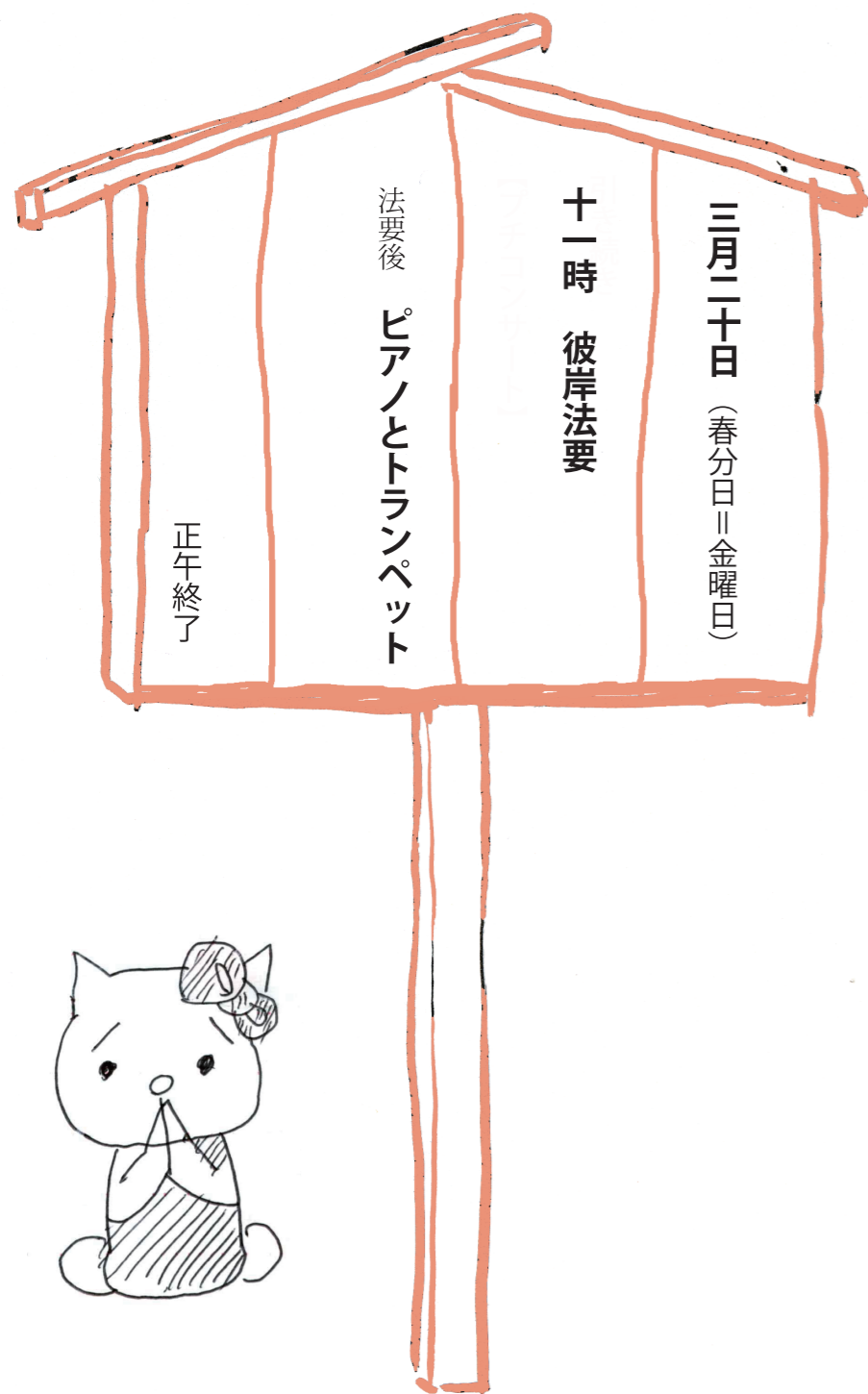


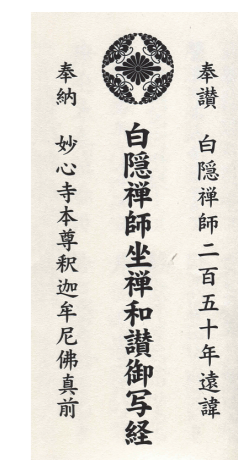
3月17日（月曜日=彼岸入り）から22日（日曜日）まで、朝8時頃から夕方4時頃まで、墓地では花と線香を用意しております。



360-0815 埼玉県熊谷市本石 1-102  
臨濟宗妙心寺派 松岩寺 住職 花岡博芳

tel 048-522-1812 fax 522-9189 chief@shoganji.or.jp

つまれ!  
写経の日程



第4土曜日の午後1時半から4時半まで本堂で写経ができます。  
都合の良い時間に来て、ご自分のペースで写経して、お好きな時間にお帰りください。ただし、初めての時はなるべく一時半にご参集ください。もちろん、檀家さん以外でも参加できます。お友だちを誘ってお越しください

【写経】令和8年上半年開催日

3月	28日（土）	午後1時半～4時半
4月	25日（土）	午後1時半～4時半
5月	23日（土）	午後1時半～4時半
6月	27日（土）	午後1時半～4時半
7月	25日（土）	午後1時半～4時半
8月	お盆行事のため休会	

法要後は、ピアノとトランペット。ピアノは本堂にいつも置いてあるけれど、これを壇上にあげるのがたいへんです。

【日曜の朝の坐禅体験】

つれい



毎週日曜日の朝六時～七時、松岩寺本堂での坐禅に一般の方も参加できます。朝六時に鐘をつきますから、それまでに本堂に入ってください。初心の方には、坐り方をご案内します。三十分坐って休憩、残りの十五分ほど坐って、最後に般若心経をよんで七時に終わります。

つれい

【金つぎ教室】講師 花輪滋實  
第四土曜日 午後一時半～四時半 会費3千円



【大人のためのリトミック】講師 大澤佳奈子  
会費5百円

3月	14日（土）	午後3時～4時
4月	11日（土）	午後3時～4時
5月	9日（土）	午後3時～4時
6月	13日（土）	午後3時～4時
7月	11日（土）	午後3時～4時

本堂はすべて椅子席です。椅子を並べる間隔を調整するため、電話・FAX・Eメール等でご出席をお知らせください。

【編集後記】

○今期の朝のNHK連続ドラマは『ばけげ』です。小泉八雲とその妻の物語ですが、私が気づいた限りで、劇中に二度ほど本山妙心寺の境内がでてきます。北川景子さん扮するタエが地べたに坐って物ごいをするシーンです。一度目は妙心寺境内のメインストリートで、裏ページの写真（夜明けの妙心寺）付近。二度目は「あんな所が」と思うような路地でした。大秦の撮影所から近いこともあって、映画、テレビの撮影によく使われている妙心寺境内です。

○京都に関する本はとつも出てくるけれど、エッセイストの酒井順子著『都と京』（新潮文庫）に次のような一節があります「東京には空がない。……と、かつて智恵子は言ったそうなのですが。〈途中略〉なぜ智恵子がそう感じかといえは、東京には山がない。……からなのではないかと、思うのです」。

○高村光太郎の絶唱、『智恵子抄』の名句に対して、「空がないのは山がないからだ」と注釈したのは、スゴイ。そしてエッセイストは、次のように書きます。（清少納言が見ていた「やうやう白くなりゆく山ぎは」とかも、京都盆地の三方を取り囲む山々のうちのどれかなのでしょうか。平安の時代から京都人達は、山々に縁取られた空を見ていたのです）、と。

○『都と京』は東京生まれ東京育ちの作家が京都を賞賛しているけれど、妙心寺南門近くで幼少期を過ごし、嵯峨野に長く住みながら、京都の悪口を書いたのが、井上章一著『京都ざらい』（朝日選書）です。そのなかで、東山が西に見える面白い逸話があるのですが、紙幅がつかまりました。拙著『またまたおうちで禅』の184ページで紹介しているから読んで！（博芳記）

墓地管理費のお願いを同封してあります。郵便振替で七月末までにお納めください。なお、三月十七日から二十二日まで、墓地では花と線香を用意しています。

はじめて本山・妙心寺を訪れた人がいました。  
「へえー松岩寺は狭くてちっぽけだけど、本山はどでかいんだ」

「遠諱 (おんき)」とは、50 年に一度、祖師方や故人を偲ぶ節目をいいます。功績とご恩に感謝して大法要をおこないます。今回のご遠諱は、妙心寺二世の微妙 (みみょう) 大師がご遷化されて令和 9 年が 650 年目になります。すでに大阪市立美術館で「妙心寺展」が開幕 (今年 2 月 7 日から 4 月 5 日)。関連行事ははじまっています。松岩寺に割り当てられた法要の日時は下記です。

日時 令和 9 年 3 月 25 日 (木曜日) 11 時～12 時  
場所 京都市右京区花園・妙心寺法堂 (はつとう)

- 妙心寺集合、妙心寺解散
  - ◇ 熊谷駅集合、熊谷駅解散など。プランは自由
  - △ 募集人員 15 名
- 〈詳しくは今年の秋彼岸にご案内します〉



夜明けの妙心寺 住職撮影

境内の北、旧中山道に面したところにある、伝道掲示板の令和 6 年正月に掲載することばを紹介します。

# 伝道掲示板

blog 版から

伝道掲示板には 1 ヶ月にひとつの言葉を紹介しています。経典の引用であったり、詩や小説のなかの言葉であったりします。道ばたの 1 メートル四方の掲示板ではお伝えできない、ことばの周辺は松岩寺ホームページの blog に載せています。

三月のことば  
自分とは自分。人に何を言われたって気にしない！  
法句経 81 より

3 月。彼岸の月です。『俳句歳時記』(角川書店編)によれば、「単に彼岸といえば春の彼岸をさし、秋分の日をはさんだ彼岸は秋の彼岸という」、らしい。どちらにしても、彼岸、つまり理想郷をめざす週間です。理想郷ってどこにあって、どんなのだ！

今から 60 年前 (1967 年)、「天国よいとこ一度はおいで、酒はうまいしねえちゃんは綺麗だ」と作詞したのは、現在は精神科医の北山修さんです。天国 (仏教では天国とは言わない。天上界、あるいは極楽浄土) では二日酔いしたり、アルコール依存症になったりはしないのだろうか。と思うけれど理想的な暮らし方のひとつに「しずかに毎日過ごす」があります。「しずか」に漢字をあてると、「静」と「閑」があります。毎度お世話になっている白川静著『常用字解』(平凡社)で「閑」を引くと(静先生には申し訳ないけれど、今回は「静」には立ち入らない)、「門と木とを組み合わせた形。門のしきり。それで閑には「ふせぐ」という意味があり」と説明してくれます。つまり、門に木をわたして、侵入してくるものをふせぐから「しずか」でいられる。

無理に入りこもうとする者(物)にはいろいろあります。たとえば、オレオレ詐欺に病原菌、風や雨などなど。現代でいちばんやっかいなのが、スマホから侵入してくる情報でしょうか。情報のなかでも面倒なのが、自分自身への攻撃。私でいうと、あまりというかまったくというか、そういうのには近づかないようにしています。他人が自分のことを何と言っているか、気にはなるけれども精神が閑であるために見ないようにしている。

さて、彼岸三月の言葉は宮下真著・てぶくろ星人絵『日めくりブツダせいかつ』(仏教伝道協会発行)から拝借しました。この本の「はじめに」はこう書かれています。「ブツダは、ひとが苦しんだりけんかをしたりしないで、しあわせにくらしていくにはどうしたらよいかをいっしょうけんめい考えたひとです。この本の中にはブツダが見つけた 31 の大切なおしえがあります。毎日まもって、楽しく元気にすごしましょう！」

ひらがなの多用された「はじめに」からわかるように子供用に作られた本でしょう。しかし、内容は深い。今月のことばにしたのは 19 番目のページにあります。「自分とは自分。人に何を言われたって気にしない！」は、ダンマパダ (法句経) とよばれる初期仏教の経典にある「岩の塊りが風に揺るがないように、賢者は非難にも賞賛にも動じない (ダンマパダ 81)」の超訳なんですね。もしかして、いじめにあっている児童生徒学生、いやいや大人だって、このことばを知ったら勇気がでてこないか！

仏教を説く、禅を知る。って、結局は古くてかび臭い経典語録の言葉を現代に通じる言葉に翻訳することなのだろうな、と思い知らされた今月の言葉でした。

## お彼岸法要とトランペットとピアノと

ぶらぶら

中岡 泰真 (Trumpet)

国立音楽大学 (管打楽器ソリスト・コース) 卒業、同大学ディプロマ・コース修了。現在、フリーランス奏者として活動中。

吉原 佑香 (Piano)

国立音楽大学 (鍵盤楽器ソリスト・コース) 卒業、同大学院 (ピアノ専攻) 修了。現在、講師、フリーランス奏者として活動中

ぶらぶら (予定)

ニュー・シネマ・パラダイス

カントリーロード

上を向いて歩こう

Spring (久石譲) Trumpet sonata (Ewazen) 他

